

令和5年度第2回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会 議事録（要旨）

- 日 時： 令和5年5月30日（火） 午前10時30分から12時00分まで
- 場 所： 市立病院北館7階ホール1
- 出席者： 理事長 黒田 啓史
理 事 清水 恒広、岡野 創造、半場 江利子、松本 重雄、
能見 伸八郎、山本 みどり、白須 正、小畑 英明
監 事 長谷川 佐喜男、中島 俊則
事務局 長谷川経営企画局次長、大島京北病院事務管理者・統括事務長、菱田経営企画課長

1 開会

2 報告事項

(1) 令和4年度 京都市立病院機構決算（速報値）について （報告事項）

資料1に基づき、長谷川経営企画局次長から報告。

- 入院について、稼働病床利用率が目標値と比較して低くなっている要因について教えてほしい。また、令和4年度はコロナ補助金が増額したことにより黒字経営となったが、今後、コロナ補助金収入が変動すると赤字経営になる恐れがあるのか。
- 稼働病床利用率は、休床した65床も分母に含まれているため、実際の運用より低い値となっている。また、そのような状況を差し引いても令和3年度より稼働率は低い。また、コロナ補助金収入により黒字経営となっているが、コロナ補助金収入がなければ、赤字になる恐れがある。今年度5月8日以降、コロナ確保病床を36床から22床に減らし、あわせて休床数も減らし、一般病床に戻して運用している。今後、コロナ補助金収入は大幅に減少するため、一般病床で黒字にしていくべく病床稼働率等を高めることを意識しないといけない。
- 病床稼働率において経営的な数字を達成していくためには、89%を目標としていく必要がある。
- 特別減収対策の20億円の借入を令和5年度から返済をしていくことについて、現段階での返済予定について教えてほしい。
- 年間1.6億円を13年かけて返済していく。
- 厳しい経営状況であるが、資金面ではこの借入があるため、持ちこたえられているという認識で合っているか。
- そのとおりである。
- コロナ補助金は5月8日以降、どの程度削減される見込みか。
- 年間ベースで4分の1程度に減少する見込みである。
- 令和4年度はひと月2億円補助金があったが、今年度4月から9月までの間でおおよそ5億円になる見込みである。
- 京北病院は、減収傾向であるが人口減が原因か。
- 人口減もあるが、医師等診療スタッフの確保等課題は多い。昨年度途中で院長が体調を崩したことも要因である。そのために、令和5年度は新たに院長を招いたところであり、今後、患者数の増を計っていきたいと考えている。
- 支出の経費その他において、他施設では光熱水費の増にあわせて補助を受けたりしているが、市立病院はいかがか。また、京北病院について、訪問介護及び訪問診療が減ってきている要因について教えてほしい。
- 光熱費の値上げに伴って、1億3千万円の光熱水費増となった。その内、市立病院は1,700万円程補助金をいただいている。企業は値上げ分を価格転化も可能だが、当院は診療報酬が決まって

いるため厳しい現状がある。

- 京北地域において、在宅患者が減ってきていることも要因の一つとして考えられる。
- 患者数を増やすためには、二人主治医制は大切であり、かかりつけ医の信頼を得るためには、紹介患者が紹介元に帰っていただくことが重要。二人主治医制は引続き推進していく必要がある。
- 逆紹介患者も増やしていきたい。
- コロナ補助金26億円が今後、4分の1に減るとなると、12億円の経常損益から26億円を差し引くと14億円の赤字となる。この赤字は政策医療等に対する運営費負担金収入を反映したものであるため、政策医療等に対する負担金がなければ28億円の赤字になるという認識で合っているか。公立病院は、政策医療など民間では採算がとれないような分野もあるため、補助金がなければ自立ができないと思う。まずは事業として収支を政策医療と一般医療に分けて表現し、政策医療等に関しては京都市に十分に負担をしていただけるよう働きかけ、その一方で、一般医療については努力していく必要がある。
- 一般医療の赤字を改善するには、診療報酬で収益が抑えられている中、固定費をいかに抑えるかがポイントとなる。
- 診療単価を上げつつ、稼働数を上げていくことが必要である。政策医療等については、京都市に要望しているが、当院でも経営努力をしていくべきだと考えている。
- 財団法人等の会計では、赤字傾向の公的な分野と自主努力で事業展開する分野で分けられている。市立病院も分けるべきである。
- それぞれ分かりやすく示すことが必要と考えるが、一般医療は当院で頑張らなければならない。民間病院は、DPC制度に関する研究ノウハウがある。当院も係数を上げる取組をしていき、報酬上、更に確保できる部分もあると思うので、現場とともに、しっかり取り組んでいきたい。
- 累積赤字があり、更に70億円の借入があるため、経営としては非常に厳しい。今から対策を検討し、京都市と共有していくべきである。
- 独立行政法人であったとしても、京都市との関わりは深いため、経営努力をしつつも、京都市に支援を求めることは大事である。

(2) 令和4年度 年度計画進捗状況報告について（報告事項）

資料2に基づき、長谷川経営企画局次長から報告。

- 開業医の先生が患者に市立病院の市民公開講座を勧めていただけるような機会が増えれば良いと思う。
- 現在実施中のミニ市民公開講座は血液内科が自発的に開催を申し出たもの。その結果、血液内科の入院患者は増加傾向である。
- 地域の医療機関を対象とした地域医療フォーラムを年2回開催しており、当院の診療内容の紹介も行っている。
- 医療のデジタル化に関して、京北病院との遠隔診療や手術、AI診断をしていくことが可能になれば医療従事者不足解消などにおいて有効的であると考えている。また、デジタル医療の現状と現状にあわせた市立病院の状況について機会があればレクチャーいただきたい。
- 広報に関して、他の病院の地下鉄広告を見かけるが、効果が見込めるなら検討されてはどうか。また、今後の取組について教えてほしい。
- 広報については、現在、患者にとって分かりやすいホームページ作りを検討中である。

3 その他

令和5年度第5回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会（10月31日（火））は京北病院で開催予定。

4 閉会